

令和元年 8月市長定例記者会見

日 時：令和元年8月5日（月） 午前11時～

場 所：射水市役所会議室305・306

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、毎日新聞、北日本放送、
富山テレビ放送、チューリップテレビ

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、
未来創造課長、上下水道業務課長、総務課長

質疑応答の概要

Q 1 . 上下水道お客様センターについて、運営権を民間企業に売却するというわけではなく一部業務を委託するという認識で正しいのか、また、市民への周知方法について伺いたい。

A 1 . 包括業務委託は、あくまで射水市が今まで行っていた業務を民間事業者
に委託するものである。料金業務や施設の維持管理業務を包括的に委託
するため、運営権を売却するわけではない。市民の方への周知については、
包括業務委託実施に向けて、昨年度から準備を進めてきた。議会に対して
説明を行い、昨年秋に公募を行った。また、今後、広報などでお知らせ
していく。民間と連携をすることでより専門的なノウハウを活用し、効率
的でより良いサービスを市民の皆様へ提供する趣旨で行っている。

Q 2 . 改めて水道事業包括業務委託を行う意義について伺いたい。

A 2 . 上下水道業務はこれまで市において実施してきた。市の職員は数年ごと
に人事異動が生じるため、スキルの継承・蓄積や人材育成が難しいという
課題があった。今回、民間に委託することで、専門性の高いノウハウやス
キルを持った人材の確保や業務の効率化、さらには、計画的な人員の育成
を行うことで安定したサービスの提供が期待できる。市としても、民間の
方と協力し連携する中で、市の職員のスキルアップにも繋がる。品質が低
下するのではなく、さらにより良い品質やサービスの提供を目的として
業務委託を進めたい。他にも長期的な視点では、経費削減や民間事業者
に地元採用もお願いできればと考えており、今後このような効果も期待し
ている。

Q 3 . 上下水道お客様センターは、どこで業務を行うのか。次に、経費削減については、業務課の人数が減るという理解で正しいか。市側の人員配置についてと上下水道お客様センターと市の業務の差別化について伺いたい。

A 3 . お客様センターの窓口の設置場所は、従来、料金業務や施設の維持管理を行っていた場所(窓口)で10月1日にスタートする。料金業務については1階の業務課の窓口で、施設の維持管理や民間の事業者の対応の窓口は、2階の業務課や工務課での取扱いとなる。将来的なレイアウトを見直しながら、お客様センターとして1箇所へ集約する。業務開始時の民間の事業者の体制は、料金管理業務12名、施設維持管理業務6名の計18名で行う。行政側の人員の配置は、確定ではないが10月1日時点で4名ほどが業務課から人員に余裕が出てくると捉えている。今後業務を進めていく中で、今の仕事に当たっている職員が別の部分に時間を割けるようになっていくと考える。

Q 4 . 他の部分に人員を割けるという部分には、働き方改革のニュアンスも含まれているのか伺いたい。

A 4 . 働き方改革にも繋がれると考えている。他の部署では、計画を立案したり企画を考えたりする中で地域の皆さんとの打ち合わせや業務の説明をしている。その部分に人員が今までより増えれば仕事を分担でき、業務の効率化へ繋がれる点としては働き方改革になると考える。

Q 5 . 委託事業者は、他の地域ではどのような事業を行ってきたのか。また、全国では包括業務委託を行った例があるのか伺いたい。

A 5 . 委託事業者は、全国的に業務の受託をしており、施設の維持管理から個別の業務委託まで幅広い事業を展開している。今年4月時点の実績では、全国の自治体で約120件受けている。包括的な契約は、全国で例は既にあると考える。県内では、高岡市や氷見市は事業者から料金業務の委託を行っているが、射水市のような包括業務委託は県内初である。包括的に契約をすることで、民間事業者側が人員配置等も柔軟に検討できると考える。

Q 6 . 先日土曜日に行われたまちづくりシンポジウムについて。パネルディスカッションの中で印象に残った意見を伺いたい。また、新しい複合交流施設の運営に向けての組織作りに対してどのようなものを考えているのか伺いたい。

A 6 . 基調講演の講師を務めた松本大地先生に、パネルディスカッションのコーディネーターも務めていただいた。パネルディスカッションの中では、斬新なアイデアや地域のまちづくりの可能性を強く感じる機会となった。例えばモーニングエコノミーの取組として八戸の朝市や朝食をメインにした活動の話も聞くことができた。万葉線の中村社長からは、海王丸パーク等に車を停めて新湊発で沿線観光をしてもらおう提案もあった。他にも、若者に対しての魅力ある取組として、若者が気軽に集えるような場所の創出や定住に繋がる提案をいただいた。これらの意見を参考にしながら、今後のまちづくりに生かしていきたい。印象的だったキーワードは、「ローカルファースト」である。地元を愛し、地元の資源を工夫したり利用したりする中で、まちそのものを育てていく発想である。地域の皆さんの地域愛を生かし、その思いと同じベクトルに合わせて、今後のまちづくりの賑わいや魅力創出の取組に繋げていく重要性を改めて認識した。まちづくりを担っていく組織をぜひ立ち上げたいと考えており、関係の方々に相談している。どのような組織、形態、やり方が良いのかを含めて現在進行形で相談しながら検討している。大まかな状況が決まり次第報告する。